

2024年11月7日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
(TEL： 078-302-7075)

CLL Society (米国) へのスポンサーシップ提供のお知らせ

当社は、慢性リンパ性白血病・小リンパ球性リンパ腫 (CLL/SLL) に関する支援団体であるCLL Society の要請を受け、CLL Societyにスポンサーシップを提供しましたことをお知らせいたします。

本スポンサーシップの提供に伴い、当社が米国で実施中のdocirbrutinib (AS-1763) の臨床試験のバナーが、CLL Societyのウェブサイトに掲載されました。これにより、患者様の本臨床試験情報へのアクセスが容易となり、エントリーの促進が期待されます。

以上

CLL Society (米国)

慢性リンパ性白血病・小リンパ球性リンパ腫 (CLL/SLL) に関する世界的に認められた支援団体

<https://cllsociety.org/>

Mission

CLL Society は、CLL/SLLに関する包括的な、患者様中心・医師監修の非営利の支援団体です。患者様への情報提供、アドボカシー、支援、研究を通じて、CLL/SLLの患者様をとりまくコミュニティのアンメットニーズに取り組みます

Vision

CLL/SLLの患者様をとりまくコミュニティ全体が、より健康で豊かな生活を送るために、質の高い教育、支援、ケアを公平に利用できる世界を目指します

—CLL Societyホームページより当社和訳—

BTK阻害剤docirbrutinib (AS-1763) について

docirbrutinibは、慢性リンパ性白血病 (CLL) を含む成熟B細胞腫瘍 (血液がんの一種) の治療を目的として開発中の、野生型および薬剤耐性変異型BTKの両方を阻害する高選択性で非共有結合型の経口投与可能な化合物です。イブルチニブを代表とする共有結合型BTK阻害薬は、CLLや他の成熟B細胞腫瘍の標準選択薬として使用されています。しかしながら、多くの患者で、BTKの481番目のシステイン残基 (C481) がセリンに置き換わる変異が生じて、共有結合型BTK阻害剤の結合が弱まり、薬剤耐性になることが報告されています。また、ピルトブルチニブを含む開発中の非共有結合型BTK阻害剤に対する新

たな耐性変異も報告されています。docirbrutinibは、野生型BTKおよび薬剤耐性変異型BTKのリンパ腫細胞の両方の増殖を強く阻害することから、野生型のみならず薬剤耐性変異型BTKをもつ患者の治療にも有効と考えられ、次世代型BTK阻害剤として開発を進めています。

現在、米国においてフェーズ1b試験を実施しており、2024年10月に用量拡大パートの投与を開始しました。

また、2024年6月に開催された欧州血液学会（European Hematology Association 2024 Hybrid Congress）においては、治験主導医師であるテキサス大学MDアンダーソンがんセンター白血病科教授 Nitin Jain医師が、本フェーズ1b試験に関する初期データを発表しました。この初期データは、docirbrutinibの良好な安全性、薬物動態プロファイル、並びに共有結合型BTK阻害剤およびBCL-2阻害剤を含む複数の標準的な全身療法による前治療歴を有する成熟B細胞腫瘍患者に対する有効性を示唆しました。